

学 位 論 文 要 旨

氏 名 清永裕子

題 目 教員組織を支える校長のリーダーシップに関する研究
一フォロワーの認知に着目した社会心理学的アプローチ

学位論文要旨（和文2,000字又は英文1,000語程度）

本研究の目的は、教員組織が有効に機能するために重要である校長から教員に対する働きかけの効果が、それを受ける教員の認知によって異なる可能性を明らかにすることであった。

研究1においては、校長のソーシャル・サポートを取りあげた。教員を対象とした質問紙調査により、研究を進めた。研究の結果、日々の校長による影響力、すなわち、校長が専門性を示すことや教員にとって見習いたいと感じるような行動をとっていること、報酬を適切に与えていることなどが、校長のソーシャル・サポートの効果に関連することが見いだされた。

サポートの違いに目を向けると、校長からの道具的サポートを受け入れやすいのは、校長の専門性を高く認知している教員であった。校長からの情緒的サポートを受け入れやすいのは、校長からの強制的な圧力をあまり感じていない教員であった。そのほか、校長と教師とのコミュニケーションの頻度を高めることや、教師が自己主張できると感じられる雰囲気作りも校長からのソーシャル・サポートの受け入れやすストレス反応の軽減に関連することが明らかになった。

これによって、教員組織のメンタルヘルスを改善させるために、校長の日常的な影響力へ目を向けることの重要性や風土づくり、さらには、教員の自己主張に関連するスキル向上などを目指すことの意義が明確になったと言える。

研究2においては、校長によるリーダーシップは教員の集団同一性の中の関係レベルあるいは集団レベルのいずれに強く関連するのかを検討した。現職教員を対象としたWeb調査によりデータを収集し、分析を行った。その結果、校長の変革的リーダーシップは、教員と校長との関係に基づく同一性と組織への同一性の両方と関連が示された。しかし、エンパワーリングリーダーシップでは、校長との関係や組織との同一視などとの下位の項目と有意に関連せず、集団同一視の合計点とは有意に関連することが示された。

具体的には、変革的リーダーシップのうち、「知的刺激の提供」と「個別の支援の提供」は、集団同一性の「管理職との結びつき」にポジティブに関連する結果が示された。すなわち、フォロワーの個人内の関心を認め、それを発展させるように励ますような働きかけ、そして、教員が個人の考えを組織の中で表現できるよう支援する働きかけがあると、教員は特に管理職との関係が良いとの認知とつながりやすいと考えられる。この場合、教員は教員組織・集団のメンバーとしての自分というよりも、むしろ、校長とのつながりに準拠して組織で活動している可能性がある。ただし、「知的刺激の提供」は、集団レベルでの自己概念にも関わっている。そのため、校長との関係だけでなく、教員組織・集団のメンバーの一員であるという意識とも関連していると思われる。このことから、教員に教員組織・集団のメンバーの一員としての認知を強く持たせるために、校長は特に教員の個人内の関心を認め、それを発展させるように励ますような働きかけを行うことを心がけると良いかもしれない。エンパワーリングリーダーシップは、集団同一性の合計得点に対しては有意にポジティブな関連を示したが、下位尺度については有意な結果が示されなかった。先行研究を踏まえると、エンパワーリングリーダーシップは同僚との関係レベルでの集団同一性と関連する可能性がある。ただし、何らかの要因を媒介している可能性がある。これについては、今後さらに研究する必要があると考える。

本研究の結果から、教員組織のメンタルヘルスを改善させるために、校長の日常的な影響力へ目を向けることの重要性や風土づくり、さらには、教員の自己主張に関連するスキル向上などを目指すことの意義が明らかになった。また、教員の組織のメンバーであるという意識を高めるために、校長が教員の個人内の関心を認め、それを発展させるように励ますような働きかけを行うことを心がけることの重要性が示された。